

〔新儀式四時〕御庚申事

若有御庚申事、藏人奉仰裝束東孫廂南五間、東頭立御屏風、其內鋪疊爲王卿侍臣之座、內藏寮辨備酒饌賜之侍臣、又進碁手、先獻御料物、王卿依召候御前、御厨子所供菓子干物御酒、終夜之間有打攤之事、或有賦詩獻歌之事、及于曉更令侍臣奏絃管、遲明給祿有差、

〔西宮記三月〕一御庚申

出御臺、又以前置半疊一枚、其邊立小燈、可依召、王卿依召參候、候、置御料錢供御菓子、有仰有集、攤打高目者取錢、或有作文歌遊倭歌、事無定後、打破時又始打也、

〔侍中群要八〕御庚申

凡御庚申之儀、裝束孫廂、屏風疊等、用掃部寮御內藏寮辨備酒饌賜之侍臣、同寮進碁手料錢十二貫、御其遺給侍臣及王卿依召候御前、御厨子所供菓子干物御酒、終夜之間有擲采戲及于曉更有勅侍臣令奏管絃兼亦給祿、

〔日次紀事正月〕凡一年中、六庚申夜亦被供酒菓於青面金剛、入夜賜飲食於殿中男女、則被催御遊、諸家亦多有斯儀、俗間亦獻七種菓、供雙瓶酒而祭之、相傳庚申青面金剛之緣日也、故如此、朋友相聚、多喫赤小豆粥宴遊、到鷄鳴而止、是謂庚申待、此日詣粟田口三猿堂、及八坂庚申堂、庚申堂、天王寺所有爲本、凡一年中六庚申日、始終兩度、特參詣多、

〔年中重寶記雜〕一年六たび庚申をまつり、その夜はねぶらすといふは、人むまれて腹中に三戸蟲ありて、身をはなれず人をがいせんとす、此蟲庚申の夜、人の罪とがを天につぐ、上戸は人の頭にゐて眼をくらくし、面に皺をた、み、髪の色を玄ろくなさしむ、中戸は腸の中の五臓を損じ、惡夢をなし、飲食をこのむ、下戸は足にゐて命をうばひ、精をなやます、庚申の日、ねむらすして三戸の名をよべば、わざはひをのぞき、福をきたすと老子三戸經に見へたり、夜半ののち、南にむかつて